



蓮通信

The Lotus News

2005年12月20日 発行 No.27 通巻60号

蓮文化研究会 The Lotus Japan

事務局 三浦功大

〒171-0052 東京都豊島区南長崎3-9-23

ラボン・ファミユ 207

電話 & FAX 03-5995-2052

URL : //www.estyle.ne.jp/lotus/

E-mail : lotus:@estyle/ne/jp

第八回蓮文化研究会総会開催のお知らせ

日時 二〇〇六年一月二十九日(日)

開場 午後1時

総会開催 午後1時30分～3時30分

引き続き蓮の情報交換会。

場所 豊島区立勤労福祉会館 六階第七会議室

東京都豊島区西池袋二・三七・四

電話 03・3980・3131

懇談会 17時頃より池袋駅近くの居酒屋にて、新年懇談会を開きますのでご参加下さい。

会費 三,〇〇〇円(懇談会)

*総会および懇談会にご出席の方は同封葉書

で1月25日まで事務局へご連絡下さい。

*総会にご欠席の方は1月25日まで、同封の

委任状にご記入の上、ご返送下さい。

総会には多くの方の出席を願っています。会員の方でまだお会いしたことがない方もいらっしやいます。特に東京近県の方で、お時間の都合のつく方は、ご多忙とは存じますが、ご出席いただけますようお願い申し上げます。

『蓮文化だより10号』2006年1月末発行予定

会員各位に原稿をお願いしました『蓮文化だより10号』は、一月末に発行予定で編集中です。今回は20名の方から原稿をいただきました。

王先生からは内田顧問連園での観蓮会の心情を詠んだ漢詩をいただきました。

版形、ページ数は例年どおり、A4版、40ページ、オールカラーです。発送は一月末の予定です。

新会員紹介(9月～12月に入会された方)

土肥哲英 〒二〇一・〇〇〇三

東京都狛江市和泉本町

電話 03・3488

松田英男 〒二七〇・〇一一四

千葉県流山市東初石5

電話 04・7154

阿部眞明 〒二〇一・〇二〇二

岩手県一関市萩荘字堂の沢

電話 0191・29

河原地佳子 〒一五五・〇〇三二

東京都世田谷区代沢4

電話 03・4314

建入ひとみ 〒一五二・〇〇三五

東京都目黒区自由が丘2

電話 03・5701

FAX 03・5701

Mail tachini@h-intl.co.jp

URL http://www.h-intl.co.jp

東美津代 〒三五〇・一一五五

埼玉県日高市武蔵台2

電話 0429・82

十二月十五日現在の会員数は百七十一名です。

第三回栃木花蓮展開催

蓮文化研究会主催栃木花蓮展が、今年も10月29日～31日、NHK宇都宮放送局1F Jreで開催しました。

今年の応募点数は133点、最優秀賞は栃木勇氏の「優美な蓮」でした。審査員の先生方、後援、協賛いただいた各社にお礼申し上げます。

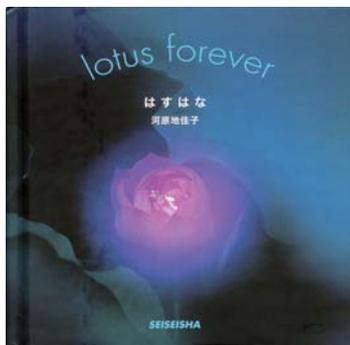
アメリカ黄蓮を観る

池上正治理事が七月下旬、蓮関係者では阪本祐二氏以来、三十年ぶりにアメリカの野生、自生のアメリカ黄蓮(Nelumbo lutea)を観察してきました。阪本祐二氏はバージニア州のバージニア・ビーチの黄蓮でしたが、池上理事はウィスコンシン州シカゴ市の近くポーテジ町の湖に咲く大型の黄蓮です。現地では蓮に名前がついておらず、黄蓮と呼ばれているようです。ポーテジのアメリカ黄蓮は、太陽が傾く夕方まで花が閉じずに咲いているのには驚きました。十月二日の蓮文化研究会例会で報告をしていただきました。



写真集『はすはな』河原地佳子著

新会員の河原地さんが、南越前町で撮影した、小型本(120×120)の写真集を上梓しました。定価819円 問合せ Tel 075・721・5755(青葙社)



はすはな

発行所 株式会社青葙社

FAX 075-722-3995

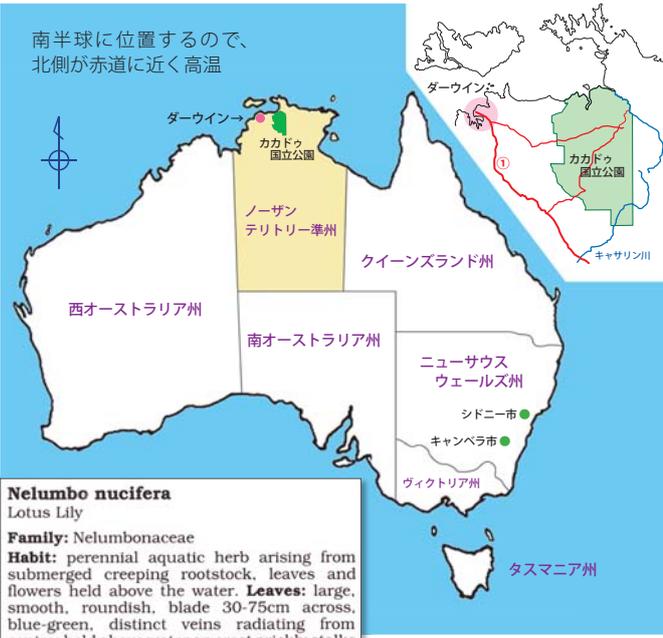
http://web.kyoto-inet.or.jp/org/s-s-s/

オーストラリア北部における蓮の自生

千島 秀元

去る8月17日〜24日にかけて、再びオーストラリアを訪れた。シドニーまでの9時間、時差一時間は慣れにより快適な空路になった。今回、東側の地域を回ったが、雨が少なく爽快な気候に恵まれた。ハンドルを握ると、日本同様に左側車線なので苦にならないが、20倍以上の国土を否応なく実感させられる。広大な砂漠とユーカリの木が何種もあつて、景色は全く趣を異にしている。

この辺は湿地帯が無く、蓮の自生は無理。カカドゥ・ナショナル・パークのアーネムランドとの東側境界、アリゲーター川の南部や北側のキャサリン川周辺に自生している。西側に100km程離れたダーウイン地域、クインズランドの北側等にもある。オーストラリアの蓮は、北部の中心から、東に約500km、南北に250km程の範囲に分布している。公園以外は極めて交通の便が悪く、蓮が観られる3月



Nelumbo nucifera
Lotus Lily
Family: Nelumbonaceae
Habit: perennial aquatic herb arising from submerged creeping rootstock, leaves and flowers held above the water. **Leaves:** large, smooth, roundish, blade 30-75cm across, blue-green, distinct veins radiating from centre; held above water on erect prickly stalks 0.5-1.5m high. **Flowers:** large, prominent, fragrant, deep pink petals and yellow centre, 15-25cm across, solitary, held above water on erect prickly stalks to 2m high. **Fruit:** smooth, oblong, hard, nut-like single-seeded fruits about 2cm long (often mistaken for seeds), many in cavities of dark grey, cone-like woody receptacle 6-12cm diameter at the top. **Flowering:** Mar-Nov. **Fruiting:** recorded May-Aug. **Features:** aquatic plant with very large roundish leaves held above water; spectacular large pink flowers held above the water. **Habitat:** lowland wetlands, in freshwater lagoons, swamps or billabongs, in water up to several metres deep, in black clay soils. **Aboriginal Uses:** root tubers and seeds edible raw or cooked, seeds also ground into flour for bush bread (3,5,7,16,28); viscid juice from leaf stalks used to treat sickness and diarrhoea (3). **Notes:** widely used overseas for food and medicinal purposes (3). Seeds may be extremely long lived, one record of germination after 237 years. **Dist:** K. D. AR. AL. QLD. PNG. Borneo; Philippines; Thailand; Japan; China; India; southern USSR.



から11月にかけては、天候も不順らしい。原住民も入らない地域の湿地帯がかなり点在するようで、他にも自生の可能性があるかも知れない。図書館や書店を回ってみると、蓮が載っている、John Brock著の「北方オーストラリアにおける自生植物」を発見、入手した。その264頁を読むと興味深いのは、アボリジニー（原住民/金髪もいる）が、蓮根や蓮の実を食用にするばかりでなく、茎や蓮根の汁を薬用にも用いている、との記述である。特に面白いのは、蓮の実を挽き粉にしパンにしているということだ。つい、それでは分量が足りないのでは、と思つて仕舞う。

蓮を通じて見ても分かるが、世界標準の白人社会は、ケルト文化を離れ、ネイティブ文化を全く受け継いでいない。アジア人以外にも、オーストラリア原住民は、植民地政策の片隅で、蓮文化を維持していたのである。蓮の系統は基本的に、東洋の赤色とアメリカの黄色である（白系は赤系の亜種）。ネイティブ・アメリカンは黄蓮とどの様に係わつていたか、今後の研究が待たれる。[NATIVE PLANTS]（北方オーストラリアにおける自生植物）掲載の写真をみると、東洋種の赤い蓮とほぼ同等の形状であるが、実（同一品種にならない）によらず、蓮根で栽培を試みない限り形質が解らず、黄蓮と同様、まだ日本に蓮根が入っていないため、東洋種のように生育上の特性が掴めていない。以下、原文及び翻訳。

蓮を通じて見ても分かるが、世界標準の白人社会は、ケルト文化を離れ、ネイティブ文化を全く受け継いでいない。アジア人以外にも、オーストラリア原住民は、植民地政策の片隅で、蓮文化を維持していたのである。蓮の系統は基本的に、東洋の赤色とアメリカの黄色である（白系は赤系の亜種）。ネイティブ・アメリカンは黄蓮とどの様に係わつていたか、今後の研究が待たれる。

長さ2cmの長円形をしており、堅くなめらかな木の实のような果物で（しばしば種子と混同される）、頂上にある直径6cm〜12cmの暗い灰色をしたコーンの状の木質容器の多数の空洞にある。記録では、5月から8月の水上に支えられた、非常に大きい丸い葉と、大きく壮観なピンクの花が水上に支えられ、それが結実する特徴をもつ水生植物。

蓮を通じて見ても分かるが、世界標準の白人社会は、ケルト文化を離れ、ネイティブ文化を全く受け継いでいない。アジア人以外にも、オーストラリア原住民は、植民地政策の片隅で、蓮文化を維持していたのである。蓮の系統は基本的に、東洋の赤色とアメリカの黄色である（白系は赤系の亜種）。ネイティブ・アメリカンは黄蓮とどの様に係わつていたか、今後の研究が待たれる。

目立って大きく、良い香りである。花弁は濃いピンク色で、中央の花托は黄色。直径15cm〜25cmの単独房で、棘だらけで直立した高さ2mの茎によって、水面よりも上に支えられている。

多年生の水生植物であつて、水下に隠れた地下茎から発生する。葉と花は水上に支えられている。

植物分類
ハス科ハス属（学名） ハス種（英名）
習性
多年生の水生植物であつて、水下に隠れた地下茎から発生する。葉と花は水上に支えられている。

低地湿地、淡水の潟、沼の中あるいは自然湖の水で、数メートルの水の中、黒粘土の土壌。原住民の利用者は、塊根と種子を生あるいは料理して食用にする。種子は未開地でのパン用に挽いて粉にした。葉茎から採れる粘性性の液は、疾病や下痢の治療に使用した。
メモ
広く海外で食物と薬の目的のために使われた。種子は、とても長寿命であるとされ、237年後の発芽という記録がある。
分布（地域）
オーストラリア（キャサリン、ダーウイン、アリゲーターリバー、クインズランド）、パプアニューギニア、ボルネオ、フィリピン、タイ、日本、中国、インド、南部ロシア